2018年11月17日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第26回）

**≪ヤマの誘惑（復習）≫**

カタ・ウパニシャッドの勉強を続けます。ヤマはナチケーターにアートマンについての質問をやめて別の願いをしてほしいと頼みました（第２１節）が、ナチケーターはアートマンの知識を得ることが最高の願いでありそれを教えてもらうのにあなた以上の先生はいないと答えました（第２２節）。

ヤマはナチケーターにその願いを思いとどまらせるために、さまざまの欲望の対象、すなわち、長生き、息子、娘、孫、家畜などの動物、などの富、広大な王国を提示してナチケーターを誘惑します（第２３節）。

次の第２４節をもう一度読みましょう。［第２４節の訳文を参加者全員で声に出して読む］

***もし他に、これと同じぐらいの良い恩恵を、あなたが考えつくならば、それを望むがよい。富を選びなさい。長寿や、王になることを選びなさい。神々や人間が切望するものを何でも願い出なさい。私はあなたをその享受者にしてあげよう。***

第２４節は第２３節とほぼ同じようですが、前に（第２３節で）提示したもの以外の別の願いがあったらそれも言ってくださいとヤマはナチケーターに言っています。ヤマは普通に考えられる欲望の対象を提示しましたが全部を言ったわけではありません。それ以外の願いの可能性も必ずあります。なぜなら、皆さんの欲望には際限がありませんから。

そして、それ以外の願いがあれば言ってください、私はそれもかなえますとヤマは言っています。前は（第２３節では）「長生き」を挙げていましたが、今は（第２４節では）「チラ　ジーヴィカーㇺ」と言っています。「チラ」の意味は「永遠」ですから、「永遠のような長生き」ということです。長生きしないとその分の快楽はありませんから。

ヤマは「あなたのすべての願いを恥ずかしがらずに私に率直に言ってください」と言っています。自分の欲望を恥ずかしいと思って言わないことがありますけれど、そうしないでくださいと言っています。そして私は何でもかなえることができますと請け合っています。

**＜すべての願いをかなえる～サッティヤサㇺカルパ＞**

ヤマはすべての願いをかなえることができると言っていますが、それについて次の言葉があります。

**Satyasamkalpa（サッティヤサㇺカルパ）**

samkalpa（サㇺカルパ）の意味は「誓い」、「約束」、そして「願い」です。そしてSatyasamkalpa（サッティヤサㇺカルパ）の意味は「すべての願いを満足させることができる」です。

普通の人にはすべての願いを満足させる力はないです。ですから神様に頼んでいます。自分であるいは他の人のサポートがあってもかなえることができない願いがあります。例えば、大きな病気のとき、お医者さんでも助けることができないことがあります。

そのとき神様に頼んでいます。お金でその願いをかなえることはできません。他の人にもできません。しかし神様には特別の力があります。神はその願いを満足させることができます。神様にお願いするのはそれがあるからではないですか。それで神様に祈っています。

祈っていますが我々は神様にお願いしても本当に神様が願いをかなえてくださるかどうかという疑いがありませんか。しかし、ここでは、神自身（ヤマ）が、願いがあったら何でもかなえますと言っています。だからかないますね。

そしてヤマは普通の神ではないです。特別です。神々の中にもいろいろなレベルがありますがヤマはとても高いレベルの神です。ヤマは自分の願いも他の人の願いも満足させることができます。それはなぜでしょうか。

我々の「普通の願い」は世俗的なものであり、それらは全部プラクリティの中のもの、自然のものです。一方で、「ブラフマンについての願い」は「あなたを悟りたい」、唯一それだけです。それ以外にありません。

我々の「普通の願い」はプラクリティのさまざまなものについて出ています。ブラフマンについてのものではありません。我々のすべての願いはサットワ的、ラジャス的、タマス的、またはそれらを合わせたものです。では、どなたが我々の願いをコントロールしていますか。

**プラクリティ（根本的エネルギー）が我々の願いをコントロールしています**。プラクリティがコントロールしていますから、我々は自分の願いを満足させることができるかできないか、それがはっきりとは分かりません。

我々はプラクリティの奴隷のようです。プラクリティが我々をコントロールしていますから、我々の願いの趨勢は最終的にプラクリティが決めています。それが普通の状態です。

しかし、皆さん想像してください。今はプラクリティが我々をコントロールしていますが、もし我々がプラクリティをコントロールすることができれば、プラクリティは我々の命令に従います。今までの状態が逆転します。

どうすればプラクリティをコントロールすることができますか。それは**プラクリティを超越する**ことです。それが大事なポイントです。プラクリティを超越しますとプラクリティは我々の奴隷になります。言葉では簡単ですが本当はとてもとても難しいことです。

プラクリティを超越した人の願いはどのような願いであってもプラクリティはその命令に従います。そのようにプラクリティを超越することができた人は、**サッティヤサㇺカルパ**の方です。その方の**願いはすべてかないます**。その方は悟った方、高いレベルの聖者、神様の化身です。そしてヤマはその種類の神です。

ヤマはプラクリティを超越してその種類の大きな神になりました。ヤマが自分の願いも他の人の願いも満足させることができるのはヤマがサッティヤサㇺカルパの方だからです。ナチケーターに「願いがありましたら何でも言ってください。私はかなえます」と言ったのは、その自信からでした。

**＜イエスの例＞**

サッティヤサㇺカルパの例を聖書（バイブル）の中に取ります。或るとき、イエスが弟子たちと一緒に船に乗っていますと大きな嵐が吹いてきました。そのときイエスは寝ていました。嵐で船が沈む可能性がありますから弟子たちは怖がって「主よ、主よ、先生、先生、起きてください！」とイエスを起こしました。

イエスは最初ちょっと怒って「あなたたちは何も信仰がない」と言った後、「嵐よ、止んでください」と命令しました。するとすぐに嵐は止みました（マタイによる福音書、第8章 23節-27節）。

嵐は自然のものですね。台風も津波もみな自然のもの（プラクリティから生じている）です。自然災害と言っていますね。その災害を止めたいと我々が「台風よ、止んでください」と言って台風が止まりますか。地震、洪水が止まりますか。止まりません。

ですが、イエスが「止んでください」と言うとすぐに止まりました。なぜなら、イエスは自然を超越したサッティヤサㇺカルパの方でしたから、自然はイエスの奴隷になりました。この嵐の話だけではなく、イエスにまつわる特別な出来事が他にもいろいろありましたね。

イエスは、病気の人、例えば、目が見えない人、歩けない人、ハンセン病の人に、「あなたは元気になってください」と言ったところ、その人たちはすぐに元気になりました。

ラザロの逸話もあります。マリアとマルタはイエスの弟子でとても信仰の深い人たちでした。その二人の弟のラザロが亡くなりました。そのとき、マリアとマルタのところにイエスが来ました。二人はとても泣きながらイエスに「先生、あなたがいなかったので我々の弟が亡くなりました」と告げました。

イエスも泣いていました。イエスはラザロが埋葬されている場所に連れて行ってくださいと言いました。そしてその場所に行きお墓のふたを開けると、イエスは「アップ、ラザロ、アップ（起きてください、ラザロ、起きてください）」と言いました。するとラザロは起き上がりました（ヨハネによる福音書、第11章）。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはその出来事を引用してインド人に「起きてください、起きてください」と呼びかけました。そのときのインド人はみなタマス的な状態でしたから。タマス的な人に「起きてください」と言うのには深い意味があります。

寝ていますから起きてくださいと言っているのではありません。今のタマス的な状態から起きてもっと素晴らしい状態に入ってくださいと言っているのです。

ラザロの出来事はシンボル的ですね。イエスはどうしてラザロをよみがえらせることができたのでしょうか。親戚の人が亡くなったときに、普通の人がその人に「起きてください」と言っても起き上がらないですね。誰も戻りません（笑い）。

ラザロは病気で亡くなりました。病気や死はみな自然のものですね。自然を超越することができますと、自然はその方に従います。イエスは自然を超越した方でしたから自然（病気による死）はイエスの命令に従います。それでラザロはよみがえりました。

**＜ホーリー・マザーの例＞**

ホーリー・マザー（シュリー・サーラダー・デーヴィ―）は弟子にイニシエーションの後に「今生があなたの最後の誕生です。あなたはもう生まれることはありません」と仰いました。その意味は「あなたは解脱できます」です。

しかし、普通に解脱することはできないです。我々には欲望がありカルマがありますから。カルマの法則でまた生まれないといけないです。そのように生まれ変わり（輪廻転生）をくり返します。最終的には解脱することができますけれども、それがいつかはわかりません。

ですが、カルマの法則は自然の法則ですね。自然の法則ですから自然を超越した方にそれは従います。ホーリー・マザーはサッティヤサㇺカルパの方でしたからホーリー・マザーの願いに根本的エネルギー、自然は従います。それによって弟子の解脱がもたらされました。

**＜願いは他の人のサポートのために＞**

サッティヤサㇺカルパの方は自分のための願いはしません。自分の楽のためにはやりません。その願いはすべて他の人のサポートのためです。それが一番大事なことです。

悟っていませんが超能力を持っている人がときどきいます。求道者が厳しい修行の結果、超能力を得ることがパタンジャリのヨーガ・スートラの中に書かれてあります。しかし、超能力を得ても本当は心が浄らかではないことがあります。利己的なことがあります。

心が浄らかではなく自分の良くない願いを満足させるために超能力を使うとどうなりますか。一つは堕落します。もう一つは超能力の力もなくなります。もちろん神様を悟ることもできません。

そのため、パタンジャリもラーマクリシュナも何回も何回も気をつけてくださいと言っています。それ（超能力）を絶対に自分のために使わないように、現れても使わないでくださいと言っています。そうしないと悟ることはできません。

ホーリー・マザーはご自分にも病気がありませんでしたか。しかし、ホーリー・マザーは私の病気を治してほしいと自分のための願いはしていないです。ホーリー・マザーはそのことをラーマクリシュナに祈りました。それが面白いです。

自分が困ったときに**自分のためにその超能力を使っていない**です。ラーマクリシュナに治してくださいと祈りました。それは特別なことです。サッティヤサㇺカルパの方は自分の願いを満足させるためのことは何も言いません。次は第２５節に入ります。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２５節≫**

***ye ye kāmā durlabhā martyaloke sarvān kāmāṁśchandataḥ prārthayasva；***

***イェー　イェー　カーマー　ドゥルラバー　マルティヤローケー　サルヴァーン　カーマームシュチャンダタㇵ　プラールタヤスヴァ；***

***imā rāmāḥ sarathāḥ satūryā na hīdṛśā lambhanīyā manuṣyaiḥ；***

***イマー　ラーマーㇵ　サラターㇵ　サトゥーリヤー　ナ　ヒードリッシャー　ラㇺバニーヤー　マヌシュャイㇶ；***

***ābhirmatprattābhiḥ paricārayasva naciketo maraṇaṁ mā‘nuprākṣīḥ.***

***アービルマットプラッタービㇶ　パリチャーラヤスヴァ　ナチケートー　マラナㇺ　マーヌプラークシーㇶ***

［「カタ・ウパニシャッド カタカナ読み表示と日本語解説」のサンスクリット語のカタカナ表記をマハーラージが最初に少しずつ唱えて皆がそれに続いて唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える。次の第２６節も同じです。］まず、節の語を分けます。

前段の「ye ye kāmā durlabhā martyaloke sarvān kāmāṁśchandataḥ prārthayasva」は「ye ye kāmāḥ durlabhāḥ martyaloke sarvān kāmān chandataḥ prārthayasva」（イェー　イェー　カーマーㇵ　ドゥルラバーㇵ　マルティヤローケー　サルヴァーン　カーマーン　チャンダタㇵ　プラールタヤスヴァ）になります。

中段の「imā rāmāḥ sarathāḥ satūryā na hīdṛśā lambhanīyā manuṣyaiḥ」は「imāḥ rāmāḥ sa-rathāḥ sa-tūryāḥ na hi īdṛśāḥ lambhanīyāḥ manuṣyaiḥ」（イマーㇵ　ラーマーㇵ　サ・ラターㇵ　サ・トゥーリヤーㇵ　ナ　ヒ　イードリッシャーㇵ　ラㇺバニーヤーㇵ　マヌシュャイㇶ）になります。

後段の「ābhirmatprattābhiḥ paricārayasva naciketo maraṇaṁ mā‘nuprākṣīḥ」は「ābhiḥ mat prattābhiḥ paricārayasva naciketaḥ maraṇam mā anuprākṣīḥ」（アービヒ　マット　プラッタービㇶ　パリチャーラヤスヴァ　ナチケータㇵ　マラナㇺ　マー　アヌプラークシーㇶ）になります。

「イェー」は「何であれ」、「カーマーㇵ」は「願いの対象、快楽（欲望）の対象」、「ドゥルラバーㇵ」は「得るのはとても難しい」、「マルティヤローケー」は「この世界で」です。この世界にはなく天国にある快楽の対象のことを言っています。その種類の快楽のものは天国に行かないと楽しむことができません。

ナチケーターはヤマの場所からまたこの世界に戻りますが、戻っても天国の快楽のものを楽しむことができます。それは特別なことです。それはヤマの力によってかないます。

「サルヴァーン　カーマーン」は「その種類のすべての願い」、「チャンダタㇵ」は「あなたがもし欲しかったら」、「プラールタヤスヴァ」は「私に言ってください、私に願ってください」です。

「イマーㇵ」は「これらの」で、その例が後に出ています。どんな種類の快楽のものかを言うだけでなく本当に見せています。普通のこの世界の人はそれを見ることさえできません。天国に行かないとできないです。しかし、今ヤマは天国の快楽のものを見せています。

「ラーマーㇵ」は「とても美しい女性たち」、「サ・ラターㇵ」は「馬車に座っています」、「サ・トゥーリヤーㇵ」は「楽器」です。とてもきれい女性たちだけではなく富もたくさんあります。それを想像させるだけではなく本当に見せています。

「ヒ」は「本当は」、「イードリッシャーㇵ」は「そのような」、「ラㇺバニーヤーㇵ」は「もしあなたはもらいたいなら」、「マヌシュャイㇶ」は「普通の人は（できない）」です。普通の人はそれを見ることもできません。

「マット　プラッタービㇶ」は「私の命令で」、「パリチャーラヤスヴァ」は「その素晴らしい女性たちはあなたをお世話します」、「ナチケータㇵ」は「ナチケーターよ」、「マラナㇺ」は「死について」、「マー　アヌプラークシーㇶ」は「私に質問しないでください」です。

ナチケーターの最後の願いは、魂はあるのか、魂がもしあるのならば亡くなった後の魂の状態は何か、魂は一時的なものか永遠なものか、それについての質問でした。その質問をしないでくださいとヤマは言っています（笑い）。

ヤマはナチケーターにあなたの願いをかなえると約束していましたからその質問に答えないと約束違反になります。ヤマは困っているみたいですね。それでさまざまの快楽のもので誘惑しています。それは「魂について尋ねないでください」ということです。

**＜悟る前の誘惑＞**

ヤマはナチケーターに魂についての質問をしないでくださいと言って誘惑を続けています。そのように、悟る前の誘惑が、例えば、イエスにもありました。聖書にはイエスがずっと瞑想して悟る前にサタン（悪魔）が現れたことが書かれてあります。

サタンはイエスに「この世界のすべての快楽をあなたが楽しみたいのなら、私の力でそれはかないますので言ってください。それには一つだけ条件があります。あなたはいつも神様を礼拝していますがそれを止めて私（サタン）を礼拝してください」と誘惑しました。

それに対して、イエスは「帰れ。私はその種類のものはいらない。私は神様だけを礼拝します。神様だけが好きです」と答えました。

お釈迦様にも同じことがありましたね。お釈迦さまもずっと瞑想して悟る前に誘惑がありました。そしてお釈迦様も何もいらないと断りました。シュリー・ラーマクリシュナにもまた同じことがありました。

シュリー・ラーマクリシュナがパンチャヴァティで瞑想しているとき、美しい女性や素晴らしい食べ物などが前に現れて欲しければ全部あなたに上げますと誘惑されました。しかし、シュリー・ラーマクリシュナから一人の人が出て誘惑した者を殺しました。

このように、みな悟る前に誘惑がありました。誘惑があってもその誘惑に負けないで真理のことだけを考えるのは簡単なことではないです。とてもとても浄らかにならないと、とてもとても霊的な実践をして真理だけを好きにならないとそれはできないです。

そのために長い期間いろいろな霊的な実践をして心が浄らかにならないと悟ることはできません。それが大事なことです。心の中にもし小さくても一つでも欲望がありますと悟ることはできません。

或るとき、スワーミー・トゥリーヤーナンダジ（シュリー・ラーマクリシュナの直弟子）が若いお坊さんたちに「あなたたちは天国に行きたいですか」と尋ねました。お坊さんはみな「行きたくない」と答えました。トゥリーヤーナンダジは微笑しながら少しからかうように言いました、「本当は天国に行けば素晴らしい快楽のものがありますがあなたたちはそれを信じてないから行きたくないと言うのではないですか」と。

もしあなたが天国の快楽のものを見せられたならばそんなに簡単に私はそれを欲しくないと言い切れますか。それほど簡単なことではないです。天国の快楽のものを信じてもいないし見てもいないですからそれを欲しくないと答えているのではないでしょうか。トゥリーヤーナンダジはそのことを言っています。

**＜ヤマの誘惑の真意＞**

ヤマはなぜ何回も何回もナチケーターを誘惑したのでしょうか。それは遊びでもないし、いじめでもありません。ヤマは本当はナチケーターに教えたいと思っています。ですが、真理のことを教える前にアートマンについて知りたいというナチケーターの願いがどれくらい**深く、安定していて、強い**ものであるかをヤマは確認したかったのです。

我々は真理を悟りたいと言っていますが、その願いはどれくらい深く、安定したものでしょうか。普通の人にはほとんどそれほどの願いはないです。求道者であっても普通はそれほどの願いは持っていません。願いはあってもほとんどの場合浅いものです。

悟りますと**サチダーナンダ**、**永遠の至福・永遠の存在・永遠の知識**です。しかし、それをただ勉強しただけ聞いただけでは、それについての印象は全然出ていないです。イメージがないです。ですから悟りのための「**やる気**」は出ていないです。それは確かです。

一方で、我々は普通の快楽のものについてはたくさんの経験がありますね。今生だけでなく前生でもけっこうあったと思います。そのサムスカーラ（深い印象）があります。それで、快楽のものは我々を惹きつけています。我々は快楽のものをすぐに好きになっています。

ヤマはナチケーターの悟りの願いの深さや強さを確認したかったので天国の快楽のものを見せていました。ナチケーターが普通の皆さんのように快楽のものが好きだったら天国の快楽のものを見せられればそれに惹かれるはずですから。

聖典の中にKakadanta-pariksha（カーカダンタ・パリクシャ）という言葉があります。我々はいろいろな仕事（行為）をしていますけれど、あまり意味のないこと、大事ではないこと、無駄な仕事もたくさんしています。そのために**大事なことをする時間**がなくなっています。それは内省し識別しないとわからないです。

意味のない無駄な仕事とは何でしょうか。今の言葉がその例を示しています。カーカがカラス、ダンタが歯、パリクシャが調査です。学者は調べるのが好きです。カラスに歯があるかないかを調べています。それはまるで意味がないですね（笑い）。それを知って何かの役に立ちますか。シャンカラチャーリヤは注釈の中でそのことを言っています。

ヤマがナチケーターに快楽のものを見せたのは「あなたは真理のことを知りたいと願っていますがそれを聞いてもカーカダンタ・パリクシャと同じで無駄になりませんか。あなたに真理のイメージがなければ、あなたは私からそのことを聞いても何も結果は出ないし何の助けにもならないし楽しめない可能性があります。あなたは快楽のものはけっこう経験がありイメージがありますから快楽のものを楽しんでください」ということです。

ヤマがナチケーターにずっと誘惑のことを言ってきたのは、ナチケーターの願いがどれくらい深く安定して強いものかを知りたいという真意があったからです。

それに対する答えが次の第２６節です。ナチケーターはずっと聞いていました、見ていました。それでナチケーターの反応はどうでしたか。ナチケーターはどれくらい特別な方か、その答えを知れば分ります。普通の人ではないです。若いですけれどもとてもとても特別です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２６節≫**

***śvobhāvā martyasya yadantakaitat sarvendriyāṇāṁ jarayanti tejaḥ；***

***シュヴォーバーヴァー　マルティヤッスヤ　ヤダンタカイタッㇳ　サルヴェーンドゥリヤーナーㇺ　ジャラヤンティ　テージャㇵ；***

***api sarvaṁ jīvitamalpameva tavaiva vāhāstava nṛtyagīte.***

***アピ　サルヴァㇺ　ジーヴィタマルパメーヴァ　タヴァイヴァ　ヴァーハースタヴァ　ㇴリッティヤギーテー***

節の語を分けます。前段の「śvobhāvā martyasya yadantakaitat sarvendriyāṇāṁ jarayanti tejaḥ」は「śvaḥ abhāvāḥ martyasya yat antaka etat sarvendriyāṇām jarayanti tejaḥ」（シュヴァㇵ　アバーヴァーㇵ　マルティヤッスヤ　ヤッㇳ　アンタカ　エータッㇳ　サルヴェーンドゥリヤーナーㇺ　ジャラヤンティ　テージャㇵ）になります。

後段の「api sarvaṁ jīvitamalpameva tavaiva vāhāstava nṛtyagīte」は「api sarvam jīvitam alpam eva tava eva vāhāḥ tava nṛtyagīte」（アピ　サルヴァㇺ　ジーヴィタㇺ　アルパㇺ　エーヴァ　タヴァ　エーヴァ　ヴァーハーㇵ　タヴァ　ㇴリッティヤギーテー）になります。

言葉の意味です。「シュヴァㇵ」は「明日」、「アバーヴァーㇵ」は「続かない」です。すべてのものは明日まで続かない可能性がありませんか。この瞬間にはありますけれども次の瞬間に私の状態がどうなっているのか誰にもわからないです。そのことを言っています。

「マルティヤッスヤ」は「普通の人」、「ヤッㇳ」は「これらすべてのもの」、「アンタカ」は「死神」のこと、「エータッㇳ」は「その種類の快楽のもの」、「サルヴェーンドゥリヤーナーㇺ」は「すべての感覚」、「ジャラヤンティ」は「衰えます」、「テージャㇵ」は「力」です。

「アピ」は「だけではなく」、「サルヴァㇺ」は「すべて」、「ジーヴィタㇺ」は「生命」、「アルパㇺ」は「短い」、「エーヴァ」は「でさえ」、「タヴァ」は「あなたの」、「ヴァーハーㇵ」は「馬車」、「タヴァ」は「あなたの」、「ㇴリッティヤギーテー」は「踊り、楽器、音楽」です。

全体の意味は、「おお死神よ、これらすべての快楽のものは一時的なものです。コントロールしないでそれを楽しみますとすべての感覚の力は衰えます。それだけではなく、我々が一番長生きしたとしても短いものです。あなたは私に快楽のものを見せましたが、それらすべてのものをあなたに戻します。私はいらない」です。

**＜ナチケーターの３つの議論＞**

ナチケーターはヤマが見せた快楽のものをもらいたくないと言っています。その中でナチケーターは３つの議論をしています。識別するとそのことがわかります。ナチケーターはその識別ができていました。その３つの議論（１）～（３）について説明します。

（１）**すべての快楽のものは一時的です**。例えば、食べ物はそのままで長く置きますと悪くなります。そして快楽のものを楽しんでもその楽しみは続きません。快楽のものを一つずつ識別すればそのことが分ります。例えば、美しい人を好きになります。若いときはとても美しいですがその人が齢を取りますとだんだん変化しませんか。みな一時的です。

なぜなら、自然のものの変化を止めることはできないからです。前にもお話ししましたが、すべての物は始まります、存在しています、なくなります。すべての生き物は生まれます、成長します、衰えます、変化します、亡くなります。自然のものはみな同じプロセスです。

識別すると「シュヴァㇵ　アバーヴァーㇵ」（明日まで続くか確かではない）が分ります。或るときはありますが次の瞬間にはない。地震のことを考えてください。それが起きる直前まで平穏な生活がありました。そして地震が起きてそれはなくなりました。しかし、地震の起きる５分前でもそれが起きることは分りませんでしたね。

（２）**快楽を楽しむ人自身も永遠ではないです**。たくさんお金があってもその人が亡くなってしまうことがあります。私の身の周りにもそのようなことがありました。退職前から長い期間をかけて退職後に住む家をイメージして退職後にその家を建てた人がありました。しかし、その家に住んで半年ほどの間にその人は亡くなりました。

快楽のイメージを持ってやっていても最終的に楽しむことができないことがあります。それで、楽しむ人自身も続かない可能性があるとナチケーターは言っています。それも識別すれば分かります。

（３）**すべての感覚の力は衰えます**。限度なくすることを「～過ぎ」と表現することがありますね。大き過ぎ、小さ過ぎ、快楽し過ぎ、寝過ぎ、飲み過ぎ、などたくさん（笑い）。すべての感覚の力は衰えていきますが、限度なく感覚の力を使いますと衰えが早まります。

少し別の話ですが、毎日たくさん食べないで小食にしますと長生きできます。食べ過ぎないでコントロールして食べますと消化の力が長く持続します。欲張ると後になって何も食べることができなくなる可能性があります。なぜかと言えば、消化の力が弱くなりますから。

食べ物について話しましたけれど、すべての快楽についてその理解をしてください。我々にはいろいろな快楽がありますが、その説明はしなくても分ると思います。自分で理解してください。そのために禁欲のことが言われています。

快楽によってすべての感覚の力は弱くなります。なくなります。それだけではなく、他の良い性質もなくなる可能性があります。それについて、バガヴァッド・ギーターにあります。快楽のことについては欲望（カーマ）と言っています。ギーター第３章３８～４２節を見てください。［参加者が訳文を声に出して読む］

***煙にまかれた炎のように、に覆われた鏡のように、子宮に包まれた胎児のように、人の知性も様々な欲望によって覆われている。*／第３章３８節**

***このように、人の知性は欲望というに覆われて曇っている。そしてそのとは、消えることの無い欲望という火なのだ。クンティー妃の息子（アルジュナ）よ！*／同３９節**

***欲望は、眼・耳・鼻・舌・身の感覚器官と心と知性をとなし、正しい知識を覆いかくし、人の魂を迷わせる。*／同４０節**

***バーラタ王の最も秀れたる子孫（アルジュナ）よ！ 先ず己の感覚器官を統御し、正智とを壊そうとする罪深き欲望を完全に消し去りなさい！*／同４１節**

***感覚は肉体より優れ、心は感覚より優れ、知性は心より優れているが、かれ（魂）は知性よりさらに優れている。*／同４２節**

ギーター第３章４１節に、欲望によってギャーナ（正智）とヴィッギャーナ（正悟）の両方が壊されるとあります。ギャーナとは普通の学問による知識、ヴィッギャーナとは霊的な実践の結果得られる特別な知識のことです。その両方がなくなります。

同じことをナチケーターは言っています。「サルヴェーンドゥリヤーナーㇺ　ジャラヤンティ　テージャㇵ」はその意味です。その狭い意味は「感覚の力がなくなる」ですが、それだけではなく、良い性質が全部なくなる可能性があることも意味しています。次に、バガヴァッド・ギーター第９章３３節を見てください。［参加者が声に出して読む］

***ましてや心正しきバラモンを始め、信仰き聖人賢者達なら、なおさらのこと。はかなく悲苦に満ちたでは、ただ私を信じ礼拝するがいい。*／第９章３３節**

この世のすべてのものは一時的（アニッティヤㇺ）で悲苦に満ちている（アスカㇺ）と言っています。快楽で本当の至福はできないです。それも識別すれば分かります。

ナチケーターの言葉「サルヴェーンドゥリヤーナーㇺ　ジャラヤンティ　テージャㇵ」には、快楽で感覚の力がなくなるという意味だけでなく、快楽で本当の至福は得られないという包括的な意味があります。なぜなら、快楽は一時的なものだからです。

**＜長生きも一時的なもの＞**

次は「ジーヴィタㇺ　アルパㇺ　エーヴァ」です。「長生きも本当は短く一時的なもの」という意味です。永遠と比べますと長生きも短いではないですか。例えば、神は人間より長生きです。神の中で一番の長生きなのは創造の神ブラフマーです。

信じられないくらいの長生きですがそれも終わります。創造、維持、破壊という一つのサイクル（周期）があります。そのサイクルを創造の神がコントロールしていますから創造の神は一番長生きです。しかし、それも終わります。創造の神も永遠ではないです。**ブラフマン以外何も永遠ではありません**。長生きですけれども永遠ではないです。

ヤマはナチケーターに「あなたが永遠のような長生きを願うのならば私の力でそれをかなえることができます」と言いました。それに対してナチケーターは「ヤマ、あなたはそう仰いますけれど、本当は永遠に生きることはできないです」と答えました。なぜなら、すべてのものは一時的だからです。

すべての物質的なものは絶対になくなります。すべての物とすべての生き物は５つの要素（空（エーテル）、風、火、水、土）が合わされてつくられています。時間の経過とともにその５つの要素は次第に離れます。それが原因で物質的なものはなくなります。そして要素自体も永遠なものではないです。

**＜静かな心＞**

シャンカラチャーリヤは、ナチケーターの心はマハー・ラダ（mahā hrada）のようだと言っています。マハー・ラダとは大きな湖のことです。例えば、琵琶湖のようです。その湖の水はとても静かではないですか。湖水の上をスピードボートが走りますと大きな波が起こりますが、それは一時的で、またすぐに静かになりませんか。

シュリー・ラーマクリシュナはゾウのイメージを使いました。ゾウが沐浴しようと小さな池に入るとどうでしょう。その池の水の変動のレベルは大きくなります。しかし、琵琶湖にたくさんのゾウが入ったとしても琵琶湖の水のレベルは上がらないですね。

シャンカラチャーリヤは「ナチケーターの心はそれと同じ状態だ」とコメントしています。大きな湖のように静かです。とてもたくさんの誘惑を受けてもナチケーターの心が落ちつかなくなることは全くありません。静かです。それを想像してください。

普通の人はいつも圧倒されています。敏感過ぎますしとても感情的ですからすぐに圧倒されています。ナチケーターは全くその反対です。静かです。シャンカラチャーリヤの用いたマハー・ラダ（大きな湖）の例はとても美しいイメージではないですか。

バガヴァッド・ギーターの中にも同じ例えがあります。第２章７０節です。［マハーラージがメロディーをつけて歌う。］

***Āpūryamāṇam acala-pratiṣṭhaṁ samudram āpaḥ praviśanti yadvat*** /

アープーリヤマーナム　アチャラ・プラティシュタン　サムッドラム　アーパハ　プラヴィシャンティ　ヤドヴァト ／

***Tadvat kāmā yaṁ praviśanti sarve sa śāntim āpnoti na kāma-kāmī*** // (2-70)

タッドヴァット　カーマー　ヤム　プラヴィシャンティ　サルヴェー　サ　シャーンティㇺ　アープノーティ　ナ　カーマ・カーミ― ／／

「アープーリヤマーナム」は「すべての河」、「アチャラ・プラティシュタン」は「それはいつも変化しない、安定した」、「サムッドラム」は「海」、「アーパハ　プラヴィシャンティ」は「入っています」です。

たくさんの河の水が海の中に入っています。ですけれども海の水のレベルはいつも同じです。その意味は、海は大量の河の水が入ってきても圧倒されていないということです。私は逗子海岸に行くとこの節の言葉を思い出します。

「タッドヴァット」は「同じように、そのように」、「カーマー」は「いろいろな願い、欲望」、「プラヴィシャンティ」は「入る」です。心の中にたくさんの欲望が入ってもその人の心は全く圧倒されていません。いつも静かです。

成功のときも失敗のときも、さまざまの欲望の対象を見ても聞いても心は全く圧倒されていません。「サ　シャーンティㇺ　アープノーティ　ナ　カーマ・カーミ―」は「その種類の人だけは幸せになれる」です。いろいろ欲しがる人は幸せになれません。

訳文を読んでください。［参加者が訳文を声に出して読む］

***無数の河川が流れ入ろうとも、海は泰然として不動であるように、様々な欲望が次々に起ころうとも、それを追わず取りあわずにいる人は平安である。***／**第２章７０節**

どうですか、この節はとても美しいではないですか。

平安であるだけではなく本当の幸せを得られます。ナチケーターの心はこの節にある通りです。ヤマにいろいろ見せられ誘惑されましたが、それらが心に入ってもナチケーターの心はいつも圧倒されていない状態です。静かです。

ナチケーターの心を瞑想した方がいいです。瞑想のテーマを「ナチケーターの心」にすれば面白いではないですか。今、大きな湖や海のイメージを使いました。大量の河の水が海に入っていきますが海のレベルは上がらない、そのイメージです。それを瞑想しますと、その印象で、その影響で、自分の心が静かになる可能性があります。どうでしょうか、その瞑想は。

ヴェーダやウパニシャッドの先生は少しだけ聖典を教えて「今から私の言うことを瞑想してください。瞑想しないと私の言っていることは分りません」と言っています。本当に理解したいのならば、勉強した後で、勉強したことを瞑想した方がいいです。そうすることによって勉強の影響は深まります。聖典の言うことが分ってきます。聞くだけでは分かりません。

それからナチケーターは「ヤマ、あなたが提示された快楽のものは全部あなたに戻します。私はいらない」と言いました（笑い）。それは第２６節の最後の部分です、「あなたのもの（タヴァイヴァ）である馬車（ヴァーハーㇵ）、美しい女性の踊りや音楽（ㇴリッティヤ）をあなたに戻します」（笑い）。

「私は真理のことだけが欲しい。魂のことだけ私は知りたい」とナチケーターは言っています。それでヤマは分りました。ナチケーターは本当に魂の知識を知りたいということが。ナチケーターのその願いは深く、安定した、強いものです。

以上